

## 平成 23 年第 3 回定例会（9 月）一般質問

### （2）生ごみ処理に対する考え方について

○ 議員 宮下 裕美子 2点目の質問です。生ごみ処理に対する考え方について質問いたします。月形町における一般ごみ処理全般の考え方については、平成23年6月定例会の一般質問で、当時、町長職務代理者であった土橋副町長に確認しています。要点をまとめると岩見沢市・美唄市の広域処理を前提に検討する。処理方法は他の自治体の方針が出てから決定する。廃棄物減量化推進審議会等の方針が出るまでは開催しない。協議会や埋め立て処分場の地元住民への説明も同様である。月形町として主体的な考えはないという答弁であったと捉えています。

この答弁に対して非常に不満で、小さい自治体でも独自の考えで様々な検討を重ねて方針を決定すべき、また検討過程で町民との協議や説明があるべきと考えています。ごみ処理全般についてまとめましたが、この部分について町長と私との認識の違い等がありましたら、答弁の中でお答えしていただきたいと思います。本題の「生ごみ」処理についてですが、広域処理において新聞などの報道によると「生ごみ」処理の取り組み方が現在の協議のポイントになっています。美唄市・岩見沢市共に独自の考え方を示しており、美唄市は堆肥化、岩見沢市は一般ごみと共に焼却へ方向付けされていると新聞等で見聞きしています。それと別に月形町の事情として埋め立て処分場の環境改善が強く求められており、それには何らかの「生ごみ」の処理が必要であるということで、これからのごみ処理においては「生ごみ」処理が大きなポイントになると考えています。現在の社会状況は循環型社会の構築が求められていて、「生ごみ」は資源と捉えられています。例えば焼却した場合でも燃焼熱の利用や熱を発電に使う、「生ごみ」をバイオマスガス化して発電や燃料として利用する、堆肥化・肥料化などの取り組みもあります。町長のこれまでの発言と政策においては、循環型社会の構築を表明していて、ペレットストーブ等の助成に見られるようにバイオマスなどの活用も行われています。また積極的な植樹活動や林業の振興、電動生ごみ処理機やコンポスト容器の購入助成など行われていますが、「生ごみ」を有効活用する考えが延長線上にあるのではないかと感じています。しかし今まで「生ごみ」処理に関する明快な方針を聞く機会はありませんでした。そこで質問いたします。現在協議中の広域処理において、また町内最終処分場の環境改善においても、「生ごみ」処理が重要な課題になっています。環境や循環型社会を 政策の柱にしてきた櫻庭町長は、その鍵となる「生ごみ」をどのように処理すべきだ と考えているのでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 ご指摘のとおり、現在の地球環境上、資源活用においても「生ごみ」を有効活用すべきであると考えていますし、コンポスト導入や電動生ゴミ処理機の導入について、コンポストは平成13年から130個、電動生ごみ処理機は平成19年から116個が月形町民の家庭に導入されております。現在考える中で月形町は農村社会ですから周りを見渡した時、農家もしくは農村環境に住んでいる非農家の人たちは「生ごみ」を最終処分場に持っていくことはしていないと思っていますので、それを考えた時、戸数として1645戸と法人もありますので少人数家庭ということではないですが、約3分の1の「生ごみ」が最終処分場に出ていないと感じているところでもあります。今後においてもコンポスト、電動生ごみ処理機の導入を図ってもらって、福祉法人については私たちの町では鶏卵生産するということで、農業に直接関わって既に「生ごみ」の飼料化をやっている法人、EM菌製造で「生ごみ」を堆肥に向かってやっている法人もありますし、その法人については農業生産もやっていますので、それがしっかりそちらの方向に了解いただきまわっていく状況の中で、最終処分場へ投げなければならないものがどれだけあるのかが問題になってきますが、それについては私たちの町が調査もしくは意向について確認していないところがあります。出てくる「生ごみ」の量によって、これからの処理方法等色々な場面が想定されると思っていますが「生ごみ」を即、一般廃棄物として処理することは考えておりません。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 今「生ごみ」の実態調査をしていないという発言は非常に驚きました。今、広域処理のポイントが「生ごみ」をいかに処理するかということで動いている中で、月形町の実態が十分に把握されていないということ、最終処分場に月形町全体の戸数の3分の1は入ってなくとも、今入っている「生ごみ」で相当のカラス被害、アライグマの被害あるいは臭気、汚泥、汚水問題が発生して近隣の地元住民が苦情を訴える事実がある中で、それに対して認識が甘い答弁であったと思います。

先ほどコンポスト130個と電動生ゴミ処理機116個という答弁がありましたが、約3、4年間でこれだけやって実際1645戸のうちの、合わせて246戸と約15%しか導入されていないので、農村地帯で3分の1が自家処理してもそれ以外の一般の人たちの「生ごみ」は最終処分場に入っていますので、「生ごみ」処理に関して課題は大きいと認識しています。それから今年6月定例会の一般質問の答弁のように広域処理で私たちのごみ処理が進みますが、私たちのごみ量がどれほどあるかということで、例えば今岩見沢市が打ち出している焼却炉を建設する場合に、私たちの町のごみ量や質が正確に把握できなければ、建設時

の規模や負担金を決定する時、逆に言うと割の高い支払いを要求されかねないので、ごみの質あるいは生ごみの量を含めて早急に調査すべきですし、処理に関しても今まで行われていたものだけでは全く足りないので、これを続けていったところで最終処分場の環境は改善されないで、そこには新しい手を打たなければならないと思いますが、その点について町長はどのように考えているのでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 先ほどの調査していないという発言ですが、「生ごみ」を投入していない農家もしくはそのような人たちの戸数を調査していないということで、「生ごみ」の量、一般廃棄物の量を含めたものは調査済みですので、その点は誤解のないようにしていただきたいと思っております。

最終処分場の環境改善における「生ごみ」処理をどのように考えているのか、手立てをどうするのかということですが、昨年、一昨年の住民側の希望の中で、かなりきちんとやってもらわなければ困ると叱責をいただいた中で、昨年からの覆土についてもしっかりやる、殺虫剤散布もしっかりやっている中では、異臭を含めた鳥害対策についても効果としては、少しずつ上がっていると理解しているところでありますが、「生ごみ」を全量入れない状況で考えた時、これらが即できるということは無理であると考えますが、先ほども言いましたとおり「生ごみ」についてはしっかりした処理を量を含めて、今の段階で何がベストなのかということは正直判断がつかないと考えております。色々な方式があり、良い点もあれば悪い点もある状況で、これは27年度の岩見沢との今の状況ですが、焼却処分をしていくという時間の中で、うちの町もしっかり議論して行かなければならない問題であると考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 非常に驚いているのがっかりしているのが現実です。「生ごみ」の処理をどのようにするかという方針が全然無いというのは、最初に2年ほど前に美唄市と高圧処理をやるうということが出た時から一旦そちらに進んで、あるいは白紙撤回してから、様々な議論がうちの町だけでなく相手先の美唄市や岩見沢市でも行われていて、それらが報道されていて、私も議会の中で「うちの町はどのようなスタンスなのか。」と常に問うてきたと思っていたので、それがちゃんとした答えが出ないまでも検討されていると思っていましたが、今の答弁ですと広域処理ありきでうちの町の主体が無いということで驚いています。広域処理に向かう、向かわないにしてもうちの町がどのようなごみ処理をするのか、最初に言いましたが、特に「生ごみ」の扱いをどのようにするかということが重要な案件ですので、やっていないという以上何とも言えないですが、これからのスケ

ジュールで27年度までの最終的な完成まで検討するという悠長な次元でないと考えますが、町長は今後どんなスケジュールでこの部分について検討していくのか、あるいは先ほど提案した各種審議会の地元の方あるいは協議会なども含めて、町民と一緒にそれらを考える機会を設けていただけるのか、お伺いします。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 6月定例会の一般質問で町長職務代理者の副町長の答弁で「生ごみ」の試験操作をやっていると報告したと聞いていますし、ここに向かっていく、このようなプラントでやるという方針は今出せないと言っただけで、それも含めて検討しているということですから、それをしてがっかりした、町は何もやっていないという言われ方はかなり遺憾に感じるところであります。

何度も言いますが、最終的には自分たちの町で出した「生ごみ」は自分で処理していくことが基本であると思いますので、そこをしっかりと抑えていただき、法人や事業所の皆様にもそれを含めてしっかりやって行きましょうということなので、全く何もやっていないという評価だけはやめていただきたいと思います。

地域住民や廃棄物減量等推進審議会などの意見を聞くのかということですが、先般廃棄物減量等推進審議会を開催し意見を聞くということで、話をさせていただいたところです。

○ 議長 笹木 英二 今後のスケジュールについて聞いていましたが、月形町として今後どのようなスケジュールでいくのか。近隣の動向を見ているのか。今後近隣の美唄市と岩見沢市との関係を考えていると思います。

○ 議長 笹木 英二 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 一般廃棄物処理については、これから岩見沢市から月形町に対してアクションがあると思っていますが、現在それについてアクションはございません。

それから「生ごみ」を共同広域処理することは全くなく、美唄市が堆肥化に向かっていく目標年次を25年と明確にしていますが、私たちの町は何度も言いますが、食料、加工業を含めた製造業、事業所等々が人口比率に対して極めて少なく、そのようなことでは「生ごみ」を自分たちの手で最終処分場に持っていかない、中間施設に持っていかない努力があつて、その次に残った総量をどうするかということは、入れるプラント等を考えた時に、まだまだ検討して行かなければならないと思っていますが、「生ごみ」を一般廃棄物場に捨てる。一般焼却することは是認はしていないと言わせていただきます。